

《秋 号》

2021. 10. 15

あゆみ

Vol. 77

<発行>

社会福祉法人大阪府肢体不自由者協会
大阪府肢体不自由児者父母の会連合会
〒540-0006
大阪市中央区法円坂一丁目1番35号
アネックスパル法円坂内
TEL 06 (6940) 4181 FAX 06 (6943) 4661
E-mail: info@daishikyo.or.jp
ホームページ: http://www.daishikyo.or.jp

感動の『東京2020パラリンピック』無事に閉幕！ ～大阪出身の中村拓海選手、ボッチャ団体で銅メダル獲得～



去る8月24日(火)から9月5日(日)の間、東京オリンピックスタジアム等にて、運動機能障害や視覚障害のある選手4403名(161カ国)が様々な競技種目を競い合いました。

パラリンピックの趣旨は、人間を互いに認め合い、助け合う共生社会をめざすことを世界に伝えること、多様なものを様々なかけ合わせることで、既成概念を超えた新しい可能性を探り、人々の意識を変えるきっかけにすることです。どんな障害があっても能力を最大限に生かすことができれば、世界に感動と勇気を与えられるということを今回のパラリンピック選手の方々が証明してくれました。

その選手の中で、ボッチャ団体3位決定戦でポルトガルを制し、銅メダルに輝いた大阪出身の中村拓海選手にインタビューをさせていただきました。

●この度は銅メダル獲得おめでとうございます。パラリンピックという大きな舞台に出場された感想をお願いします。

「自分がこのような大きな舞台に立てたことをたいへん光榮に思っていますし、世界のトップアスリートの方々と肩を並べて対戦できたことを本当にうれしく思っています。」

●銅メダルを獲得されたお気持ちは？

「とてもうれしかったです。予選から接戦が続いていた厳しい状況のなかで、もう後がない3位決定戦での勝利、このチームで戦ってこられたことに感謝しています。」

●ボッチャ歴は何年で、始められたきっかけは？

「小学校6年生からです。11年です。理学療法士の先生に勧められて近くで開催していたボッチャ大会を観に行き、やってみたくと思いました。それまで人に言われる通りに水泳をしたりしていましたが、初めて自分でやろうと思いました。それからは、自ら練習や合宿に参加するようになりましたし、自分の気持ちを人にちゃんと伝えられるようになりました。」

●どのような練習をされていますか？

「ボールを正確に投げるために負荷をかけて筋トレやトレーニングを週6日しています。クラブ(長居障がい者スポーツセンター)には毎週火曜日に行き、クラブのメンバーと2時間ほど練習します。勤務している大阪発達総合療育センターの5階にもボッチャコートが1面あり空いている時は、そこでも練習します。」

●今回銅メダルを獲得したチームのメンバーとは普段から仲がいいのですか？

「はい、練習はもちろん練習以外でも仲がよく、年齢層も幅広いので、先輩の経験談を聞いたり日常的な会話をしたりして親近感を深めています。そのおかげで試合中もコミュニケーションがとれ戦略につながります。」

●次回パリでのパラリンピック出場は考えていますか？

「出場したいです。日本代表に選ばれるにはやはり、日々のトレーニングや練習を積み重ねてランキングを上げないとはいけません。」

●将来の夢や目標はなんですか？

「ボッチャは、障害の有無に関わらず、大人も子どもも誰でも気軽にできるスポーツです。また場所も少しのスペースがあればできます。ボッチャをたくさんの人に知ってもらいたいです。そのためにスキルアップをしたり、体験会を開いたりして普及に努めたいです。」

●今回、パラリンピックを観てボッチャを始めたいと思った方はどこへ行けばいいですか？

「長居や舞洲にある障がい者スポーツセンターやファイナブラザ大阪でやっていますので是非1度見学に行き体験してみてください。」

中村選手は、質問に対して一つ一つとても丁寧に答えてくださいました。ボッチャの普及に尽力したいという強い情熱を感じました。

今回はリモートでのインタビューでしたが、3年後には、直接お会いして、パリパラリンピックでのご活躍の様子などインタビューできることを楽しみにしています。



中村拓海選手プロフィール

大阪市生まれ 羽曳野市在住
生年月日：平成10年7月6日
年齢：23歳
血液型：A型



勤務先：2018年4月～ 社会福祉法人 愛徳福祉会
大阪発達総合療育センター 南大阪小児リハビリテーション病院 運営局

戦績：2018年日本選手権準優勝(BC1クラス)
2019年日本選手権優勝(BC1クラス)

～2021年度日本郵便年賀寄付金の配分贈呈式 開催～

北摂びよんびよん教室

障がい児通所支援北摂びよんびよん教室では「2021年度日本郵便年賀寄付金」を活用し、難聴乳幼児の聴力検査を行うための聴力検査室と検査機器を整備しました。これは法令に則り日本郵便株式会社が実施している寄付金付きお年玉年賀葉書・寄付金付きお年玉年賀切手により集められた寄付金の一部を助成していただく形で実現しました。

今回の助成に伴い、日本郵便株式会社主催の配分贈呈式が7月20日、アネックスパル法円坂にて行われました。

日本郵便からは岩崎義彦統括局長、寺垣内徹郵便・物販担当副統括局長、村中勲局長、水上克也部会長が、大阪府肢体不自由者協会からは野間田徹理事長、安居博子（北摂びよんびよん教室管理者）、稲原珠実（びよんびよん教室主任）が参加しました。

岩崎様から野間田理事長へ目録が贈呈され、当法人への地域福祉への一層の貢献に対する期待とびよんびよん教室が行っている難聴児等への療育支援事業に対して激励をいただきました。それに対し、野間田理事長から当法人をはじめとする地域の社会福祉事業を支える日本郵便の社会貢献事業に謝辞がありました。

北摂びよんびよん教室の聴力検査室と検査機器は今年6月に設置され、北摂びよんびよん教室に通所する難聴児の聴力を把握するために活用されており、通所児の保護者からも大変喜ばれています。



贈呈式の様子



日本郵便 岩崎様と野間田理事長



今回寄付をいただいた聴力検査機器



大肢協

外国人介護士実習生を受け入れて (Vol.1)

インタビュー

事務局長 野間田 徹

なにわの宮では、近畿社会福祉専門学校からフィリピンやネパール出身の外国人介護士実習生を受け入れています。

今回は、外国人介護士をテーマに記事にしてみました。

● どうして外国人介護士が注目されているのか？

2025年問題と外国人介護士

2025年問題とは、団塊の世代が2025年に後期高齢者(75歳以上)になるため、医療や介護などの社会保障費の急増が懸念される問題を指します。約5人に1人が75歳以上になる計算です。

また、介護分野における人材不足は、今よりさらに深刻になると言われています。平成30年度の介護系職員の有効求人倍率は、3.95倍と全職種の1.46倍を大きく上回っています。

このような中で、介護人材の確保として期待されているのが、外国人介護士の活躍です。

アイラさん(フィリピン) 近畿社会福祉専門学校からの実習生にアンケートにご協力いただきました。

《日本の印象について》

1. どのくらい日本で生活していますか？

2年間、日本で生活しています。

2. なぜ、日本を選んだのですか？

子供のころから、日本の文化に憧れたからです。

3. 日本に来る前に、どんなイメージを持っていましたか？

日本で生活して、どんなところが思っていたことと違いましたか？

日本に来る前に、いい国というイメージを持っていました。

生活費が高いです。

《今の生活について》

1. 日本の生活で、良いところ、不便に感じる場所は、何ですか？

良いところは、日本人がやさしいです。

2. 日本に来てびっくりしたことは、ありますか？

あります。日本に来た時、とても寒かったので、びっくりしました。私の国では、冬がないので、その時の冬には、慣れませんでした。

3. 大阪を選んだのには、理由があったのですか？

特にないです。

4. 家族との連絡は、どんな方法でしているのですか？

スマホで家族との連絡をとります。

5. 日本の食事は、おいしいですか？特に好きな食べ物がありますか？

とてもおいしいです。特にラーメンが大好きです。



6. 日本の習慣と自分の国の習慣で違って、困ることは、ありますか？

特にないです。

7. 実習をして、どんなことを感じましたか？

初めて実習に行ったので、最初は、大変でしたが、段々楽しく感じました。

《将来の生活について》

1. 将来の目標は、どんな目標ですか？

将来、介護福祉士になりたいです。そして、日本で働きたいです。

● 応援メッセージ ●

7日間の実習お疲れ様でした。

初めての慣れない環境にもかかわらず、積極的に利用者様と関わりを持たれ、気づいたことや分からないことを沢山質問してくださいました。

実習日誌は、丁寧な日本語で的確に記録され、難しい専門用語が出てくると、携帯アプリ等で調べるなどして、障害福祉についての理解を深めようと努力しておられた姿が印象的でした。指導する側である私の方こそ、アイラさんから多くを学ばせていただきました。

実習中は、笑顔で積極的に利用者様に話しかけられていました。熱心に聴いておられる姿勢が利用者様に伝わり「アイラさん、こっちに来てほしい」「アイラさんとお話したい」と皆さんに好かれ、またアイラさんからフィリピンの話が聞けて「なにわの宮に居ながら、国際交流ができて嬉しい」とおっしゃる利用者様もいらっしゃいました。

コロナ禍で大変な時期ではありますが、介護福祉士を取得され、今後福祉の現場でご活躍されることを楽しみにしています。ありがとうございました。

なにわの宮 実習生担当 中野 友里

●外国人介護士を受け入れる制度について(次号に続く)

今回のアイラさんは、在留資格「留学」を利用したものです。

次回は、外国人介護士が日本で働くための制度・資格について、深めたいと思います。

制度については、近畿社会福祉専門学校の榎校長先生の解説をもとに記事にしたものを掲載する予定です。

乞うご期待。



大肢連

第54回 全国肢体不自由児者父母の会連合会 全国大会 オンラインで参加しました！

第54回全肢連全国大会は9月18日(土)、東京都大田区産業プラザPiOでの開催でしたが、コロナ禍のため、大阪より6名がオンラインにて参加しました。

開会式では全肢連の清水会長が挨拶の中で、親・子どもの高齢化「8050問題」に触れられ、国に対して重心のグループホームの目標・指針が必要だと言われました。全肢連結成60周年記念・長期役員功労者として大阪府からは大肢連 松並利行会長と寝屋川市父母の会 岸谷洋子会長が表彰されました。

記念講演Ⅰは、全肢連顧問 衆議院議員 野田聖子氏の「障害のあるお子さまの育成、医療的ケア児支援法について」でした。ご長男が仮死で生まれ直ぐにNICUへ入り、その後数えきれないぐらいの手術を受けられ、医療的ケアが必要でしたが家に連れて帰り、自宅はICU状態であったこと、なかなか保育所に入れなかったこと、小学校入学でも医療的ケアの壁と、医療・福祉・教育の連携がなくパラバラであることを痛感され、「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」へとつながったようです。これからも国会で障害児の代弁をしていきたいと言われました。

基調講演は「オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の取り組み」について委員の山口祥代氏・吉田茜氏から報告がありました。パラリンピックの選手村には車いすや義足・義肢の修理のため世界各国から100名ものスタッフが集まり26の言語に対応したサービスセンターの開設や、競技用の車いすや備品を運ぶトラックも必要だったこと、リフト付きバスを全国からかき集めたこと、盲導犬用トイレの設置、コロナ対策もオリとパラでは違ったこと等、裏方の話が聞けました。

「東京オリンピック・パラリンピックから私たちは何を引継ぐか」をテーマのシンポジウムでは、DPI日本会議副議長 尾上浩二氏をコーディネーターに、東京都肢体不自由特別支援学校長会会長 高橋馨氏は、都立鹿本学園(肢体・知的)のオリ・パラ教育の取り組みにおいて、地域の学校とのポッチャの対抗試合や、留学生や大使館等との交流を重ね、「心のバリアフリー」(お互いを知らうとする、関わりあうとする気持ち)につながったことを語られました。ポッチャの会場を下見した時、選手用の車いすトイレには大型ベッドが設置されているのに、観客用の車いすトイレには無かった

そうで、残念に思いました。中央大学研究開発機構准教授 稲垣具志氏は「移動のバリアフリー」として、大阪メトロが御堂筋線のプラットホームの段差、隙間を縮小し、車いすの方が一人でも乗り降りできるようになった例や、パラリンピックを受け入れたホストタウンに残されたバリアフリーな取り組み、成田・羽田空港がいかんして世界トップクラスのユニバーサルデザイン水準をめざしたかを写真と共にわかりやすく話していただきました。



全肢連顧問 野田聖子氏

パラリンピックが自国開催され、リアルタイムで色々な競技を観て感動された方が多くおられたと思います。それをきっかけに、障害児者への関心・理解を持ってもらえればうれしいです。また、新幹線に車いすスペースが増加したこと、ICTが整ってきて在宅でも交流ができるようになった等、一過性にならず継続的に進んでほしいです。

最後は、記念講演Ⅱで「これからのコロナ時代にどうのぞむのか!〜ワクチン接種の現状と今後の障害者対策〜」として厚生労働事務次官 樽見英樹氏が話されました。感染者の山は今年の5月に比べ8月が4倍にもなっているが重症者・死亡者は2倍ほどでワクチン接種の効果によるものと思われるとのこと。3回目接種を12月より医療従事者から行う予定ですが、誰もが3回目が必要かどうかは見極めていくようです。

例年、全国から数百名もの参加者の方々会場に集まるため、自宅で一人パソコンの画面を見ているのは寂しくもありましたが、講演会の内容はゆっくり聞くことができました。全国大会にはなかなか参加が難しい方でもオンラインでは参加できた方もおられたと思います。次期開催は愛知県です。会場参加とオンライン参加の併用を検討していただければと思います。

大肢連事務局長 橋本 佳子

大肢連

府の回答進展なく ～要望する側も共に考える～

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から大阪府への要望の回答については、懇談をせず文書で回答をいただきました。その回答を踏まえ、より詳しく聞きたい項目に関しては、再度メールで質問することになりました。

要望の回答は、昨年とほとんど変わらない内容でとても残念でした。

『重度障害者(医ケアを含む)のグループホームを整備してください。』に対しては、「障害特性に応じた環境整備や専門的な支援が可能な人材確保が大きな課題となり整備が進んでいない状況で、大阪府としては市区町村と連携し適切なサービスが提供できるよう基盤整備に努めるとともに基本報酬額の増額など国に対しても必要な財政措置を要望してまいります」との回答でした。

専門的な人材が集まるほどの報酬額の増額が期待できるのでしょうか。問題はそこだけなのか、もっと重度障害者が安心して暮らせる場をつくるためには福祉と医療の連携したシステムが必要だと思えます。『ショートステイを整備してください。』に対しても、「今年度4月の報酬改定により短期入所に係る評価が見直されました。大阪府では、医療的ケアの必要な方の受け入れが積極的に図られるよう、報酬改定の内容についてホームページや集団指導の場で事業所へ周知してまいります」との回答でしたが、これも大切な命を預かる事業所としては、報酬額だけで簡単にできるもの

ではなくしっかりとした保障があるのではないのでしょうか。

これからは、私たち要望する側も方法や例をあげ、親の思いや障害の特性を可視化し、一つでも多くの要望が進展し、共生社会が実現するよう頑張っていかなければならないと思いました。

大肢連副会長 南 朋子

大肢連

国への要望書提出しました!

今年度も全肢連を通じて厚生労働省へ7項目、国土交通省へ2項目の要望を8月下旬に提出いたしました。

重点項目のひとつでもある「重度障害者対応のグループホームについて」は残念ながら整備は一向に進んでいません。設備コストが高かったり、専門性のある人員確保が難しい、などの理由で事業所側が二の足を踏んでいることも理由にあります。入居者も事業所も安心安全で過ごせるようなグループホームができるようもっと有効な策を検討してほしいと思います。

また、長年要望している「車いすなどの補装具の2つ目を認めてください。」については、障害のある人にとって補装具は身体の一部で、それが無いと命にもかかわるほど大切なものです。修理もメンテナンスも必要なのにどうして2つ目が認められないのか、等々要望項目に対し進展が一つでもあることを望みます。

ありがとうございました!!

大肢協

●下記の通り、寄贈いただきました。

これらは当協会が実施する障害福祉サービス等事業に活用させていただきます。ありがとうございました。

・霞 美代子氏福祉基金

なにわの宮：15年保存水、防災多機能充電ラジオライト
ひだまり：エアコン設置

びよんびよん泉北教室：エアコン設置

・株式会社エスポワール様 マスク300枚

大肢連

●お礼

去る9月7日(火)、一般社団法人大阪府信用組合協会様、株式会社オリエントコーポレーション様より「しんくみピーターパンカード寄付金」として、328,256円をご寄付いただきました。心よりお礼申し上げます。



大肢連 松並会長と大同信用組合 石川理事長

大阪府
受託事業

日帰りレクリエーション 「みかん狩り」のご案内

感染対策をしたリフト付きバスでお出かけしませんか？
恒例のみかん狩りです。

楽しい1日を過ごしましょう。

日程	11月13日(土)
場所	新樹園(岸和田市)
定員	40名(リフト付バス2台)

★詳細は各父母の会または事務局まで。



販売

食欲の秋においしい

鳥手のちゃんぽん・血うどん詰合せ
各4袋(化粧箱入)

2,916円(税込) ⇒ 特別価格で

★ご注文は各市父母の会または大肢連事務局まで。
TEL06-6940-4181 FAX06-6943-4661



【大肢協ご協力深謝】

(順不同 敬称略)

令和三年七月一日

九月三十日現在

寄付金

二一、四八九円

株式会社エスポワール



父母の会だより

池田市身体不自由児(者)父母の会

会長 竹内 久美子

会員は現在20名ですが、活動できる人は限られ、啓発イベントへの参加、バス旅行、懇談会などできることをできる範囲で取り組み、何とか活動を続けてきました。

しかしコロナ禍で今年度も昨年同様、ほとんどの行事が中止になり、思うような活動はできていません。この先が見通せない状況が続く中で、今後どのようにしていくのかを話し合いながら少しずつ活動を再開していきたいと思っています。

これからも住み慣れた池田で安心して楽しく暮らし続けることをめざし、会活動に取り組んでいきます。

「第56回肢体不自由児者を支援する チャリティバザー」中止のお知らせ

チャリティバザー実行委員長 南 朋子

毎年11月に開催しております「肢体不自由児者を支援するチャリティバザー」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため今年度も中止とさせていただきます。

いつもご協力いただいております団体、企業様におかれましては、次回開催の際には変わらないご支援をよろしくお願いいたします。

楽しみにしていただいているお客様方には来年こそ元気にお会いできますよう、役員一同コロナ対策をしっかり取りながら活動を続けてまいります。

皆様方の引き続きのご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。

主な行事(10月~12月)

★日帰りレクリエーション「みかん狩り」(大阪府受託事業)

11月13日(土) 大阪府岸和田市/新樹園

★第162回理事会(大肢協)

11月19日(金) アネックスパル法円坂

★第60回評議員会(大肢協)

11月26日(金) アネックスパル法円坂

★障害者週間 啓発活動(大肢連)

12月3日(金)~9日(木)のうち1日 京橋駅前

★交野自立センター創立記念祭(大肢協)

12月4日(土) 交野自立センター(内部開催)

★近畿ブロック地域指導者育成セミナー(近肢連)

12月4日(土) 兵庫県福祉センター

★第56回チャリティバザー(大肢連)

中止

※行事は変更になることもありますのでご了承ください。